地域移行 通信

第17号
平成23年9月発行

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

平成23年5月18日 地域移行部会を開催しました！

【テーマ】
☆『22年度の地域移行部会を振り返って
～これからの地域移行部会に向けて～』
☆情報交換
～東京都精神障害者退院促進支援事業　など

今年度第１回目の地域移行部会を５月１８日に開催しました。区内外から３３名の方に参加していただきました。ありがとうございました。
この部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討しています。今回もフロアー体となって、積極的に意見交換をしました。

『22年度の地域移行部会を振り返って ～これからの地域移行部会に向けて～』

地域移行・地域定着支援事業の動向と現状の情勢

■サポートセンターきぬた　金川さん

「地域移行・地域定着支援事業」を取りまく、国・都・区の動向や現状などを報告していただきました。

『障害者自立支援法の改正により、地域移行・地域定着支援事業が個別給付化へ』

○今回の障害者自立支援法の改正では、相談支援の充実を図るため、「基幹相談支援センターの設置」「自立支援協議会を法律上位置づけ」「地域移行・地域定着支援事業の個別給付化」「支給決定のプロセスの見直し」の大きく４つの事項が挙げられています。

○精神障害者の「地域移行・地域定着支援事業」は、国の事業を受けて、東京都が退院促進支援事業として実施しています。法改正では、これまで補助事業として実施してきた内容を個別給付化し、地域移行の取り組みを強化することとしています。

○東京都の地域移行・地域定着支援事業は２３年度で終了する予定となっており、その後は、国で示している個別給付化の制度に移行することになります。しかし、国で提示している枠組みだけでは、これまでどおりの支援を継続することが難しいと考えています。

○世田谷区では、障害者の相談支援は、５ヶ所の相談支援事業所で行っています。そもそも、１．５人体制で運営している事業所が５ヶ所あるだけでは、８０万の区民の方に対応するのは難しいと思っていますが、各事業所とも一生懸命にやっています。それでも、（実数として）月２０人の方に対応するのが限度です。

○そこで、個別給付制度となった場合をイメージするために、あくまでも仮ですが、現在、個別給付となっている「サービス利用計画作成費」の１件当たりの金額を、地域移行・地域定着支援事業に当てはめて概算してみます。そうすると、これまでは年６７０万円で受けていた補助事業だったのが、個別給付で概算すると、年２００万円程度になってしまうという状況です。あくまでも概算ですが、これでは全く事業が成り立たないという話になってきます。

『今後、どのように地域移行・地域定着支援の体制を整備していけばよいか』

○１，０００人以上の区民の方が精神科病院に入院しており、そのうち１年以上入院している方が半数以上だと言われています。お金がないから支援できないということになってはならないと考えます。

○また、地域移行・地域定着支援は、日中活動の場、在宅支援、居住と相互に連携することが有効な支援となりますが、まだまだ不足しています。また、支援者をバックアップする体制も重要です。課題はいろいろありますが、１人でも多くの方が地域に戻ってこられるような体制をどのように整えていけばよいか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

（次ページへつづきます）

今までの地域移行部会のまとめ・課題

■地域生活支援センターMOTA　宮本さん

『地域移行・地域定着に必要な取り組み～これまでの退院促進支援事業を振りかえって～』

世田谷区は、平成１８年～２０年の３年間、都内では先駆的に退院促進支援事業を実施しました。それ以降、東京都の事業に移行して支援を継続しています。東京都の事業は、平成２３年度で終了予定ですが、これまでの関わりから見えてきた課題を明らかにして、平成２４年以降につなげていきたと思っています。

▸対象者の力に合った多機能グループホーム、ケアホームが必要

退院後も２４時間ケアが必要な方が多くいますが、現在のグループホームのスタッフ数では限界があり、技術と熱意だけではどうにもならない状況だと思います。高次脳機能障害や発達障害、重複障害などでも受け入れられる、色々なタイプの住居が必要だと思います。

▸日中通う場・安心していられる居場所が必要

長期入院の方の中には、開放病棟で過ごしながら院外には何年も出たことがない方や、電車やバスに乗れなくなってしまった方も少なくありません。この事業を通じて、スーパー、図書館、外での食事等を一緒にしながら徐々に外の世界に慣れていく支援をしていますが、地域活動支援センター以外にも安心して定期的に過ごせる場が欲しいです。安心して社会に少しずつ慣れていく場の確保が必要です。

支援者としては、地域に少しずつ慣れるために、入院中から通所施設等を利用したいと思うことが多くあります。しかし、制度上は、入院中の方の利用は、通所者数に数えられないので、受け入れ側の実績にはならないという壁があります。現状では、心温かいスタッフに助けられ、制度の枠を超えて、多大の協力を得ていますが、どこの施設も手一杯です。入院中の方が利用できる枠を作ることも必要だと思います。

▸地域支援の充実が必要

ご家族からお話をうかがっていると、これまでの地域支援や精神科医療の貧困さを感じざるを得ないことが多くあります。早期介入が叫ばれ、都の精神保健福祉センターでもアウトリーチ（訪問支援）が始まっています。早めに本音の言い合える相談体制が築けて、必要なときに訪問できようになれば危機介入のあり方も変わってくると思います。遠方の病院に入院せざるを得ない時も、入院の時点から退院時のことを考えて、地域支援者が継続的に関わる必要があると思います。

▸良質な医療が必要

地域支援に取り組んでいくためには良質な医療の確保が不可欠です。「この方が何とか退院できないだろうか」という医療機関スタッフの想いが支援の出発点となる場合が多いです。病院には、自ら退院希望を訴えられない方がいらっしゃることも事実で、そのスタッフに出会わなかったら、退院する機会に恵まれなかったかもしれないと考えると、医療スタッフの関心の持ち方でその方の人生が変わってしまうこともあり得るということです。だからこそ、入院時から退院時のことを考えていくという発想が不可欠であり、地域から離れない医療を組み立て欲しいと思いますし、地域支援者も継続して医療と関わっていくことが必要です。ご本人にとっても、医療との出会いが良ければ、未治療や医療中断が少なくなります。

『地域移行・地域定着支援を進めるためには』

○この事業を通じて、地域での支えがしっかりしていれば、必要時は早めに入院することもできるので、切羽詰って遠方の病院に入院せざるを得ない方は減少し、退院も効率もよく行えることが確かめられました。

○今後、医療機関が良質な地域医療を目指す必要があるのはもちろんですが、相談支援を担っていく地域支援者も、相談されるのを受身で待つだけでは地域支援を十分に担うことはできません。医療機関と地域が連携を強め、さらには当事者によるピアサポートを充実させることにより、ご本人やご家族が容易に支援を求めることのできる体制を作り、サインを出されたら、丁寧で具体性を伴う専門的な対応を、速やかに実行に移せるようにしていくことが肝心だと考えます。

○現行のままの地域移行支援制度が終了となっても、県外から区内医療機関に入院してきている方、入院が長期化し住所地が病院住所となっている方、退院したい気持ちを言語化できない方等をどのように支援していくかという課題は残っていくと思います。

今後の地域移行・地域定着支援に向けて

■障害者支援情報センターHASIC　進藤さん

○現在、区では、第３期障害福祉計画（２４年度からの３ヵ年計画）の策定に取り組み始めていますが、計画を策定するにあたって、自立支援協議会を通して、地域移行部会としての課題を上げたいと思っています。

『東京都の退院促進支援事業終了後も、地域移行・地域定着支援が継続できる体制づくりが必要』

▸地域移行・地域定着にかかわる支援は、個々の事例によって、１件あたりの支援時間やエネルギーが大きく異なり、一律の個別給付だけでは測れません。支援を継続するためには、国の枠組みだけではなく、区でも独自に上乗せした形で事業委託するなどの体制づくりが必要だと思います。

『他区市へまたがって支援が必要な事例においても、柔軟に支援が出来るような体制が必要』

▸退院促進及び地域移行支援では、現状としても他区市にまたがって支援する事例が多くあります。今後も、柔軟に支援できるような体制が必要だと思います。

今後の地域移行・地域定着支援に向けて
フロアーのみなさんとの意見交換をしました！！

（一部をご紹介します）

○退院促進支援事業は、病院のスタッフにとってはもちろん、ご本人やご家族にも必要な支援。

（協力医療機関より）

退院促進支援事業は今後も必要な事業だと思っています。ソーシャルワーカーは、通常の流れで退院していく方にも関わっていますので、退院までハードルが高い方全てにきめ細かく支援することは難しいです。支援者として一緒に歩める人、考えてくれる人がいることで負担が軽減されます。みんなで支援しているという安心感があります。ご本人から見ると、いろいろな視点で意見を言ってくれる人がいて、自分が大切にされていると感じることができると思います。「みんながこれだけやってくれるのだから、自分も頑張ろう」という気持ちになりますし、安心感にもつながると思います。また、ご家族も不安を抱えており、退院に対して拒否感を抱えている場合もありますが、みんなで支援していくということが伝わり、ご家族も安心して前向きになれたということがありました。ピアサポーターの導入もとても良かったと思っています。この事業があることで、いろいろな社会資源が活用でき、アイディアも浮かんでくると思います。

○地域にはグループホームやケアホームなど社会資源がまだまだ足りない。　（協力医療機関より）

国の枠組みだけではなく、区独自の体制づくりが必要だという意見に賛成です。心配なのは、他区市にまたがって広域で支援する場合、どのように財源をカバーするのかという点です。個別給付の移行に伴い、対象を狭めないでほしいと思っています。

この事業に５年間携わってみて、病状が重い方の支援では、戸惑う点がいくつもありました。身の回りのことは自立していましたが、幻覚、妄想がひどくなると怠薬してしまう方がいました。退院に向け、地域の訓練施設で外泊を重ね、途中、幻覚で中断することもありましたが、再度チャレンジして、３年かかってやっと施設に入所できるというところまで進みました。その矢先に、施設側から定員を減らすため入所の受入ができないと断られてしまいました。こんなに時間をかけて支援してきたのに、ちょっとしたタイミングのずれでふりだしに戻ってしまったことがつらかったです。地域にはグループホーム、ケアホームが全く足りていないと思います。入院中から利用できるショートステイがないのも困っています。退院促進支援事業でショートステイを利用できたから、地域生活の支援を組み立てることができました。

○一定期間、同じ支援者が継続して関わる支援がご本人の安心感につながる　（協力医療機関より）

退院促進支援事業コーディネーターが関わることで病院内の風通しが良くなったと思います。外部の支援者から客観的な視点で関わってもらえる安心感があり、他の地域の情報を得ることもできます。１病棟５０～６０人の入院者数に対し、ケースワーカーは１名で、支援には限界があります。電車の乗り方、お金の使い方などきめ細かい点までコーディネーターが丁寧に支援してくれました。また、一定期間、同じ支援者が関わるということはご本人の安心感につながり、人間関係を構築する上で役割がとても大きいと思います。

（次ページへつづきます）

さいごに　（世田谷区地域自立支援協議会佐藤会長より）

　地域移行・地域定着支援は、区でも軸になっていく大事な取り組みだと考えています。今日は、地域移行部会からこれまでの振り返りということでの報告、また関係する医療機関からのご意見等を聞かせていただきました。改めてこれまでの実践のかなで良い支援の積み上げができているのだと実感するとともに、これらの積み上げが今後も活かされるような地域のしくみ作りが必要だと感じました。

　さて、本日の報告、意見交換等のなかからもいろいろな課題が示されているように、今後の施策に反映させるべき課題は山積みです。大きな枠組みでの方向転換はそれなりのコンセンサスや手続きが必要になります。併行して、“既存のものにプラスする”やや低めのハードル設定での具体的な提案の視点も大事だと考えています。そういったなかで高い理想は持ちつつ、かつ“まず今年は、これを！”というように部会のなかでメリハリや優先順位を考えた課題整理になるとさらにアピールできると思います。

　地域生活というものは持ちつ持たれつの重層構造ですが、公に責任を伴う仕事になると、悲しいかな誰かが受け持っている仕事は、裏を返せば、他がやらなくてもいい仕事にすり替わってしまいがちです。しかし、その構造のなかで実際には狭間の問題やら、本来機能すべきところが機能せずに利用者の人たちが困っているという問題がでてくるわけです。地域移行部会が扱う全区的対応が求められる支援については、特に各エリア自立支援協議会の協力を得ながら、利用者の地域移行や定着支援が進められるよう世田谷区自立支援協議会でもバックアップしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

『東京都精神障害者退院促進支援事業』　進捗状況報告
『世田谷区セーフティネット支援対策退院促進事業』　など

○「東京都精神障害者退院促進支援事業」の報告

　サポートセンターきぬた金川さん、地域生活支援センターＭＯＴＡ宮本さん・玉置さんから、平成２２年度の事業実績を報告していただきました。

○「世田谷区セーフティーネット支援対策退院促進事業」の報告

　障害者支援情報センターＨＡＳＩＣ進藤さんから、平成２２年度の個別支援事例について報告していただきました。

○その他

　金川地域移行部会長より、自立支援協議会の報告をしていただいたほか、障害者支援情報センターＨＡＳＩＣ進藤さんから、障害者施設見学ツアーについて情報提供していただきました。

今後の開催予定

平成２３年度

【第３回】　平成２３年１２月２１日（水）午後２時～
セミナールームＡＢ（三軒茶屋キャロットタワー５階）

【第４回】　平成２４年　３月２１日（水）午後２時～
セミナールームＡ　（三軒茶屋キャロットタワー５階）

＊　関係機関のみなさまには、各回とも開催前に“開催のお知らせ”をお送りしています。
＊　送付のご希望がありましたら、下記担当までご連絡ください。

編集・発行　世田谷保健所健康推進課精神保健担当
電話　03（5432）2442
Fax　03（5432）3022